

4—3. 冬期間のランブルストリップス施工

冬期間のランブルストリップス施工は、路面の凍結等が発生しやすいので、基本的には避けるものとする。やむなく施工する場合には注意が必要である。

解 説

冬期間のランブルストリップス施工には、路面が凍結した場合、施工機械の車輪がスリップし、溝の出来形が不均一になりやすいので注意が必要である。また区画線施工後にランブルストリップスを施工する場合は、区画線のはがれ等の不具合が生じやすいので、区画線が十分に乾燥してから行うものとする。



写真 4-2. 凍結路面により不均一な溝の施工例



写真 4-3. 積雪や路面の段差により区画線が削れてしまった例

4—4. ランブルストリップス施工後の区画線の施工について

ランブルストリップス施工することにより、区画線が欠けることが予想される場合、その復旧については、交通管理者と協議が必要である。

解 説

北海道開発局は、交通管理者と協議の結果、追越禁止黄色2条線上にランブルストリップスを施工する場合、黄色線が部分的に削れ、チャックのような模様（第2章・写真 2-5～6 参照）になるが、区画線の視認性が確保できるとして、復旧の必要は無いと了解を得ている。

追越禁止黄色1条線上にランブルストリップスを施工する場合は、波線状になるので、再施工が必要（第2章・写真 2-7～8 参照）となる。従って交通管理者が雪解け後の区画線の施工前に、ランブルストリップスを施工することが効率的であり、道路管理者と交通管理者の連携が重要である。